

地域計画

策定年月日	令和6年5月2日
更新年月日	()
目標年度	令和16年度
市町村名 (市町村コード)	津市 (242012)
地域名 (地域内農業集落名)	北神山地区 (北神山)

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	52.5 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	48.5 ha
② 田の面積	31.2 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	21.3 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	0.8 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	8.1 ha
(参考)区域内における75才以上の農業者の農地面積の合計	8.5 ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	8.1 ha
(備考)	

注1:①については、農業振興地域担当部局と調整の上、記載してください。

2:②及び③については、農業委員会の農地台帳の面積(現況地目)に基づき記載してください。

3:④については、規模縮小又は離農の意向のある農地面積を記載してください。

4:⑤については、区域内に特定することができない場合には、引き受ける意向のあるすべての農地面積を記載の上、備考欄にその旨記載してください。

5:(参考)の区域内における75才以上の農業者の農地面積等については、できる限り記載するように努めてください。

6:「区域内の農用地等面積」に遊休農地が含まれている場合には、備考欄にその面積を記載してください。

(2) 地域農業の現状及び課題

当地区では、過去に土地改良事業が実施されており、多くの農地が整備されている状況である。また、担い手への農地の集積・集約化が進んでおり効率的な農業が実施されている。しかし、山間部に面していることから獣害被害が常態化しており、早急な対策が課題となっている。

(3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

地域農地の集積を行っている担い手において水稻の有機栽培、特別栽培等に取り組み、高付加価値化による米のブランド化を目指していく。また、獣害被害により大豆の収穫量に影響が出ているため、ハウス栽培で他の作物の栽培にも取り組んでいく。

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1)農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針			
耕作の継続が困難となった農地については、中心経営体が可能な範囲で農地の集積・集約化を進めていく。			
(2)担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標			
現状の集積率	62	%	将来の目標とする集積率
			77 %
(3)農用地の集団化(集約化)に関する目標			
地域農地の集積を行っている担い手に農地の引き受け余力があることから、農地利用最適化推進委員とも調整し可能な範囲で集積・集約化を進める。			

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1)農用地の集積、集団化の取組
貸付け等の意向が確認された農地は、農地所有者の意向も考慮した上で、中心経営体に集積・集約化する。
(2)農地中間管理機構の活用方法
経営農地の集約化を目指し、農地所有者は、出し手・受け手にかかわらず、原則として、農地を農地中間管理機構に貸し付けていく。また、中心経営体が病気や怪我等の事情で営農の継続が困難になった場合には、地域計画の見直しを行い、農地中間管理機構を通じて他の中心経営体への貸し付けを進めていく。
(3)基盤整備事業への取組
用排水施設は整備後10年以上が経過しているが問題なく使用できている。今後も適切な維持管理を行い長寿命化を図っていく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組
認定農業者や新規就農者の確保に努め、市・県・JAと相談体制を確立し、農地の斡旋や技術的指導の支援を行っていく。 また、地域農地の集積を行っている担い手において米の有機栽培や特別栽培に取り組み、作物のブランド化を行い高収益化を実現することで、農業の活性化を図り新規就農者が参入しやすい環境を作っていく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業体等への農作業委託の取組
地域農地の集積を行っている担い手へ農作業委託を行い業務の合理化を図っていく。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください)

☒ ①鳥獣被害防止対策	☐ ②有機・減農薬・減肥料	☒ ③スマート農業	☐ ④輸出	☐ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☐ ⑦保全・管理等	☒ ⑧農業用施設	☐ ⑨その他	

【選択した上記の取組内容】

① 鳥獣被害防止対策の取組方針
地域で負担し防護柵を設置しているが、経年劣化により随時修理が必要となっている状況である。今後も適切に維持管理を行い、市の補助金等も活用しながら鳥獣被害防止に取り組んでいく。
③ スマート農業の取組方針
地域農地の集積を行っている担い手において、ドローンやAIを活用した栽培管理システムを導入することで、スマート農業の実現を目指していく。
⑧ 農業用施設の取組方針
地域の拠点となる農業用施設の建設の検討を進めていく。

4 地域内の農業を担う者一覧(目標地図に位置付ける者)

属性	農業を担う者 (氏名・名称)	現状			10年後 (目標年度:令和15年度)				
		経営作目等	経営面積	作業受託面積	経営作目等	経営面積	作業受託面積	目標地図上の表示	備考
認農	担い手A	水稻、麦、大豆、野菜	26.5 ha	23.9 ha	水稻、麦、大豆、野菜	34.6 ha	23.9 ha	A	
認農	担い手B	水稻、麦、大豆	5.2 ha	4.5 ha	水稻、麦、大豆	5.2 ha	4.5 ha	B	
認農	担い手C	水稻、麦、大豆	2.6 ha	2.1 ha	水稻、麦、大豆	2.6 ha	2.1 ha	C	
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
計	3経営体		34.3 ha	30.5 ha		42.4 ha	30.5 ha		

注1:「属性」欄には、認定農業は「認農」、認定新規就農者は「認就」、法人化を行うことが確実であると市町村が判断する集落営農は「集」、基本構想水準到達者は「到達」、農業協同組合は「農協」、農業支援サービス事業体(農協を除く)は「サ」、上記に該当しない農用地等を継続的に利用する者は「利用者」の属性を記載してください。

2:「経営面積」「作業受託面積」欄には、地域計画の対象地域内における農業を担う者の経営面積、作業受託面積を記載してください。

3:農業を担う者に位置付ける場合は、できる限りその者から同意を得ていること。

4:作業受託面積には、基幹3作業の実面積を記載してください。なお特定農作業受託面積は、作業受託面積に含めず、経営面積に含めてください。

5:備考欄には、農業を担う者として位置付けられた者に不測の事態に備えて、代わりに利用する者を記載するよう努めてください。

5 農業支援サービス事業体一覧(任意記載事項)

番号	事業体名 (氏名・名称)	作業内容	対象品目

6 目標地図(別添のとおり)

7 基盤法第22条の3(地域計画に係る提案の特例)を活用する場合には、以下を記載してください。

農用地所有者等数(人)		うち計画同意者数(人・%)	
-------------	--	---------------	--

注1:「農用地所有者等」欄には、区域内の農用地等の所有者、賃借人等の使用収益権者の数を記載してください。

注2:「うち計画同意者数」欄には、同意者数を記載してください。

注3:提案する地区の対象となる範囲を目標地図に明記してください。

(留意事項)

農業を担う者を位置付ける際、これらの者の氏名が含まれた地域計画について、法令に基づく手続として、本人の同意なく、関係者の意見聴取や、地域計画の案の縦覧、地域計画の公告を行うことができますが、個人情報を保有するに当たっては、利用目的をできる限り特定し、本人から直接書面に記録された個人情報を取得するときは、あらかじめ、本人に対し、その利用目的を明示してください。

また、市町村の公報への掲載等とは別に、インターネットの利用により関係者以外の不特定多数に対して情報を提供する場合は、氏名を削除するなど配慮してください。

必要に応じて区域内の農用地の一覧を参考として添付してください。